



英知
誠実
健康

学校だより

若鷹

尾張旭市立旭中学校

平成 29 年度 2 月号

素敵な人

ある新聞のコラムです。

校長 水野 茂

人の善意が身に染みるのはこんな時である。▼買い物物を終え、スーパーを出たところで卵のパックを落とし、割れて路上に飛び散る黄身。ぼうぜん。そこに主婦がさつとビニル袋を差し出してくれた。店員も駆けつけ、ティッシュペーパーで拭き取り、替えの卵まで持ってきてくれた。▼また過日、電車内でのこと。男子高校生が二人、シルバースーツで脇目も振らず試験勉強をしていた。そこに初老の紳士。慌てて席を譲る二人を制して紳士はひと言。「私はもう試験勉強しなくてもいいから、どうぞお気遣いなく」。それでも若者は席を立ち、勉強を再開したのだった。▼・・・産院に向かう電車内で産気づいた女性が、周囲の助けを得て、車内で無事出産するというニュースがあった。幸運と善意が重なり祝意が満ちる中、電車の遅れに苦情もあったと聞く。たかが30分。命の誕生に立ち会えた人たちからもつと歓声と拍手が起きてい

「善意」という言葉、自分はあまり好きではありません。なんとなくですが、「善意」の対義語になる「悪意」の存在を認める言葉になることからでしょうか。上のコラムの中に出てくる人(善意の人)たちは、人として然るべき行動をした人たちだと思います。そして、「善意」より「素敵」という言葉がびたっときます。「素敵な人」は、特別にいいことをしているわけではありません。人としてのモラルやマナーからそれを実行できる人、困っている人にさつと手を差し伸べることができる人は、やはり「素敵」です。旭中にも素敵な人たちがいます。素敵な行動は、「した方がいいな」と思った時に、一步踏み出すことでだれでもできます。「素敵な人」がもっとも増えること、そして、それが当たり前になることをみんなに期待しています。



将来自分がやりたいこと

まだ見つからない。でも・・・



私は、特別すぐれたものをもっていない。特に好きなこともなく、考えても見つからない。私は将来どんな仕事をしているのだろうか？目標を決めて努力している友人もいて、「世界に貢献したい」と言う子もいるのに。将来の目標はなくても私には好きなことはあった。昔はパティシエになりたいなどの夢はあった。でも小学校高学年になって自分の欠点が変わり、悩みが多くなって・・・。「自分は何がしたいのか」「何が好きなのか」ー。こう考えてはみるが、いつも周りの子と比べてしまう。そして「友人はすごいな」と思ってしまい、余計に自分のことが分からなくなってしまふ。

自分がやりたいことはまだ見つからない。でもしばらくしたら見つかるかもしれない。もう少ししたら自分のいいところが見つかるかもしれない。

小学6年生の子の投稿です。将来の夢・目標はまだ見つからない人も、焦ることはありません。「もう少ししたら・・・」です。

健全育成推進大会

1月27日(土)、市文化会館にて、尾張旭市青少年健全育成推進大会が開かれ、小中学生の表彰が行われました。旭中学校からは、3名の生徒が受けました。おめでとうございます。そして、これからも。

健全育成ポスター入選

2年生 菅田 真悠さん

善行青少年表彰

3年生 田上 亜侑奈さん

1年生 佐藤 祐貴人さん

